GRAVURE

学部４回生の前期では、先生方が独自に設定した設計テーマに応じて、自らの望むスタジオを自由に選択する「スタジオコース」と呼ばれる設計演習課題に取り組む。その中から 2017 年度の 4 作品を紹介する。

大橋 茉莉奈
Marina OHASHI

どうして悪はいつも美しく見えるのでしょうか

40

大阪市西成区の場所の力。西成は日雇い労働者の町であり、ホームレスや浮浪者が多く生活している。私は夜間緊急避難所であるシェルターを南海電車高架下に設計した。シェルターは自己の存在が消滅することが存在意義ではないだろうか。消滅の時期を迎えることができれば、シェルターは減築される。次第にそこには納骨堂が建設され、生と死の空間が拮抗する。変わり続ける西成と共にこの建築は成長していく。成長の過程で雇用を生み出し、就業支援を行う。
都市に寄生するこの建築は都市に還ることを夢見る。

角田 悠衣
Yui KAKUDA

Synapse

42

synapse－神経細胞の接合部の意。
京都大学西部講堂前に学生寮を計画する。ここは学生たちをつなぐsynapseである。彼らの日常が縦横無尽に交差している。ばらばらの背景、ばらばらの興味を持つ学生たち。彼らの暮らしが滲み出し、混ざり合ったとき、なにが起こるか。
暮らしがゆるりと繋がって。頭の中も繋がって。やがて brain となるこの学生寮。それは学生ひとりひとりの頭の中の写し鏡。

高橋 あかね
Akane TAKAHASHI

伊東忠太に私淑する

44

伊東忠太の建築観からオリンピック選手村を考える。
土から建築の形そして地形へと派生することで、埋立てられた地面とその上に立つものが渾然一体とした「ばけもの」になっていく。

新津 春佳
Haruka NIIDU

交わり
～人とのかかわりを織りなすみち～

46

幼い子どもが生まれて初めて意思の疎通を図ろうとする相手は親である。今回の課題に取り組む際、まず子どもを取り巻く人間関係、特に親子関係に着目した。
通園時間は親が子どもだけに向き合える数少ない時間として注目できると思う。したがって、親子のコミュニケーションを触発するような「通園路」となるみちを提案したい。みちは通園路であると同時に地域の子どもたちの遊び場でもあり、さらには親同士・近隣住民同士、子どもと近所の大人の交流の場にもなるような提案とした。

あいりん地区とは

大阪府大阪市西成区、JR 西日本新今宮駅の南側に位置する簡易宿泊所・寄せ場が集中する地区の愛称。
釜ヶ崎とも呼ばれ、近年はバックパッカーの宿泊地としても人気を集めている。

ホームレスは 2000 年前後をピークに減少しているが、なお多くのホームレスが路上生活を送っている。

かつて大阪ミナミは海の底であったが島之内と呼ばれる町場が出現、
その賑わいが次第に道頓堀の向こう岸まで拡張され、芝居小屋が立ち並び、人形浄瑠璃や歌舞伎が発達した。

千日前には竹林寺や千日寺があり、刑場、墓場があった。
ここには死体を処理する墓守の存在があった。
墓守が死体の処理、霊媒、詩人芸術家などの様々な役割を担い、ここから芸術は発達していく。

この付近には次第に墓守や浮浪者が集まり出し、死と生が混在する地域となる。
そしてこの地域は今日という今まで生と死が隣り合わせであるような発展の仕方をしてきたように思える。

PROGRAM

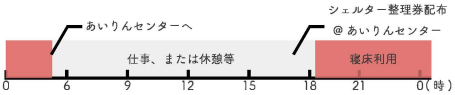
萩ノ茶屋駅の南にシェルターの機能を中心とした建築を計画する。

シェルターとは ...
●その日の寝床が確保できなかった人への緊急避難所。

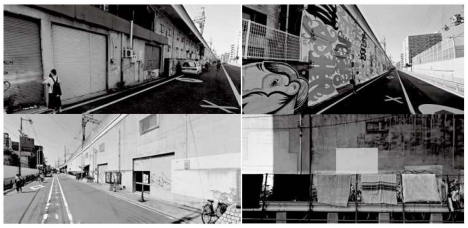
●萩之茶屋シェルターは午後 5 時半に利用券が配布され、午後 6 時半から翌朝の 5 時までの利用。その時間以外でもシャワー洗濯機などは利用できる。朝 5 時には必ず利用者はすぐ近くにあるあいりんセンターへ職を求めに行く事になっている。

●あくまで緊急避難所であるため、ほとんどの場合期限が定められている。
・三角公園南側シェルター ...3 年期限 (結局 15 年利用された。)
・釜ヶ崎シェルター ...10 年期限 (予定)

シェルター利用者の一日



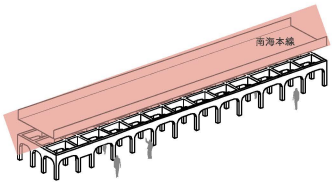
SITE



南海電車の高架下はもっと有効活用ができるのではないかと感じた。
今はウォールアート (ウォールアートニッポン) などで街を活性化させようという動きなどがあるそうです。店舗は営業されているかは不明。
西側には今宮小中学校があり、東側とは雰囲気が高架を隔てただけで違うように感じた。かつては泥棒市があったそうですが、今は落ち着いてる模様。
この系譜を引いて、大阪市の事業として西成に住民主体の屋台村を作るという構想も出ている。

DIAGRAM

①都市に寄生する

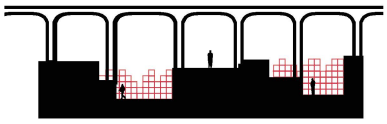


野宿やシェルターでの生活を強いられる人々は都市に棲みつく。
住宅の中にある機能（ご飯を食べる、お風呂に入る、トイレに行く、寝る）を全て町の中に頼る。
家がなければ木の下にテントを張ったり、
公園の柵にダンボールをかけたりする。
寄生とは他の生物から栄養やサービスを持続的にもらうことである。”高架”とは都市の産物であり象徴である。
高架の構造に寄生する、軽量鉄骨個室二階建てを構想した。

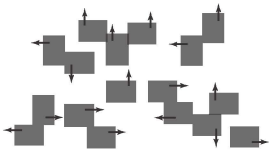
②都市に寄生する

シェルターとは、「無くなること」を使命としていてかつ、それが存在意義である。
その役目が果たされたら、シェルターは無くなることができる。
シェルターを作る、壊す（減らす）の過程によって雇用を生み出し、就業支援をしていきながら、終業までの仕事のサポートも目指す。

③命を終え、都市に還る

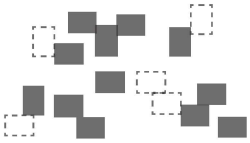


この建築の成長の先には、建築としての死、都市に還ることを夢見る。
最後にはシェルターとしての役目を終え、都市における文化的な施設や店舗になる。
それと同時にシェルターが減少するにつれて、このあいりんで命を落とした方の納骨堂が次第に形成される。
都市に還った高架下に、納骨堂という人々の命の記憶が地形とともに、残っていく。
シェルターが０になる日は来ないかもしれない、この建築は永遠に夢を見続ける。



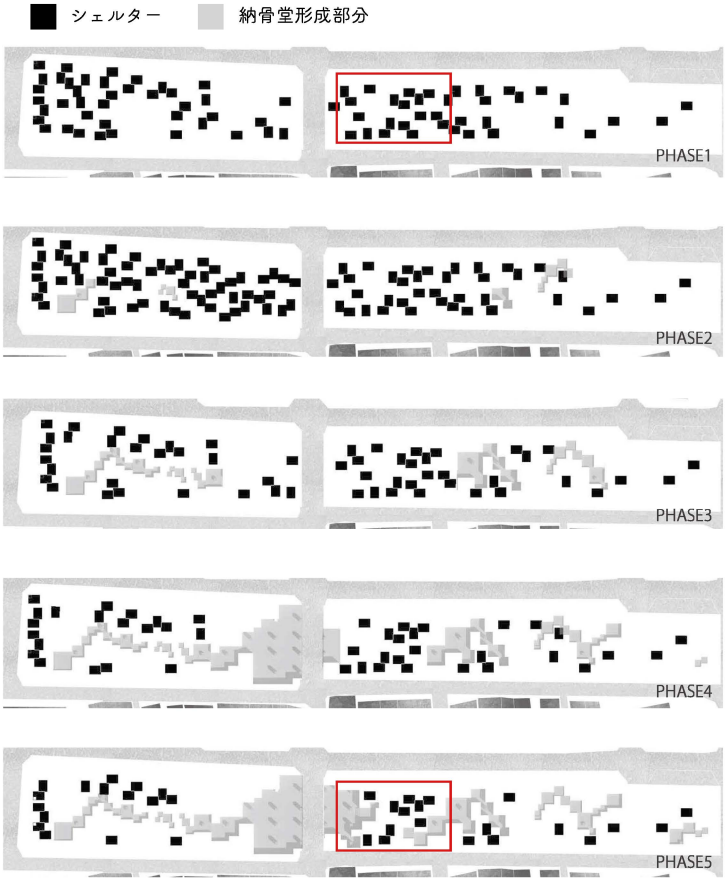
CONCEPT PLAN

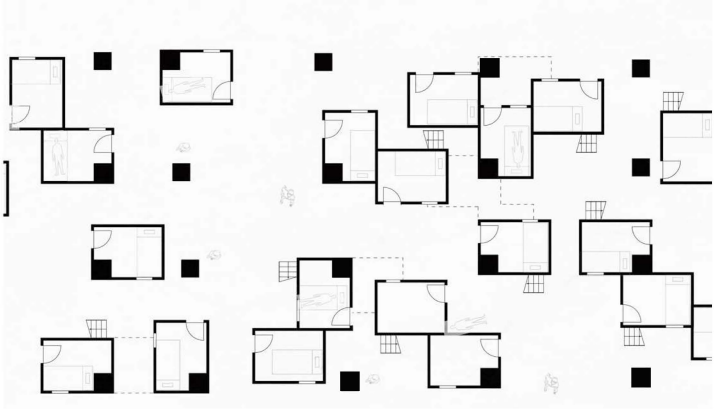
シェルターとは究極のヒューマンスケールの建築である。
野宿者のための空間も設計した。
その中で、互いに利用者が顔を合わせないような設計をした。



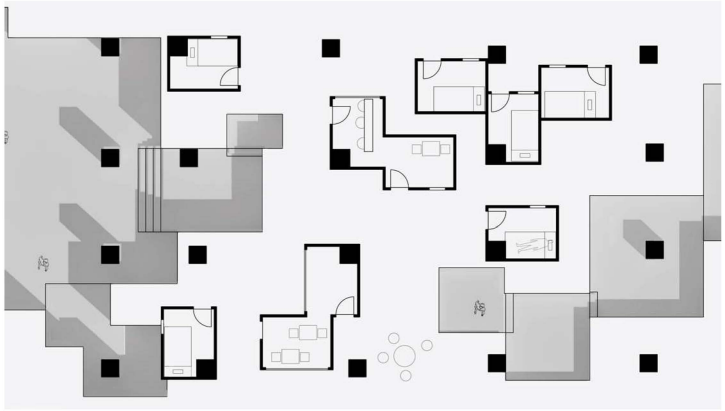
終業をし、出て行く人や高齢化で人数が減少していくことが予想される。
住居空間は憩いの空間や文化的な行為を誘発する空間などへ転換していく。

都市に寄生することで成長を終えた建築は、役目を終え、都市的な空間へと還っていく、命の記憶が納骨堂として、蓄積されていく。

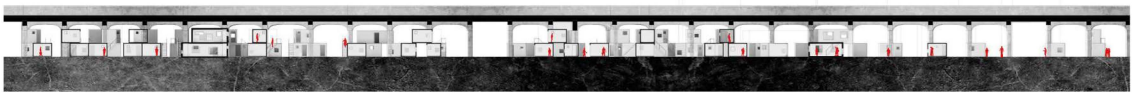




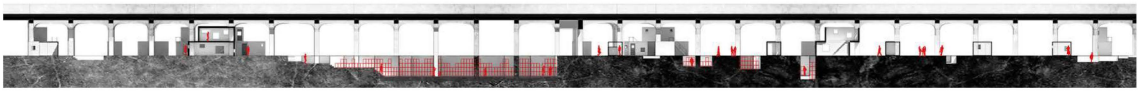
PHASE1 1FPLAN 1/300



PHASE5 1FPLAN 1/300



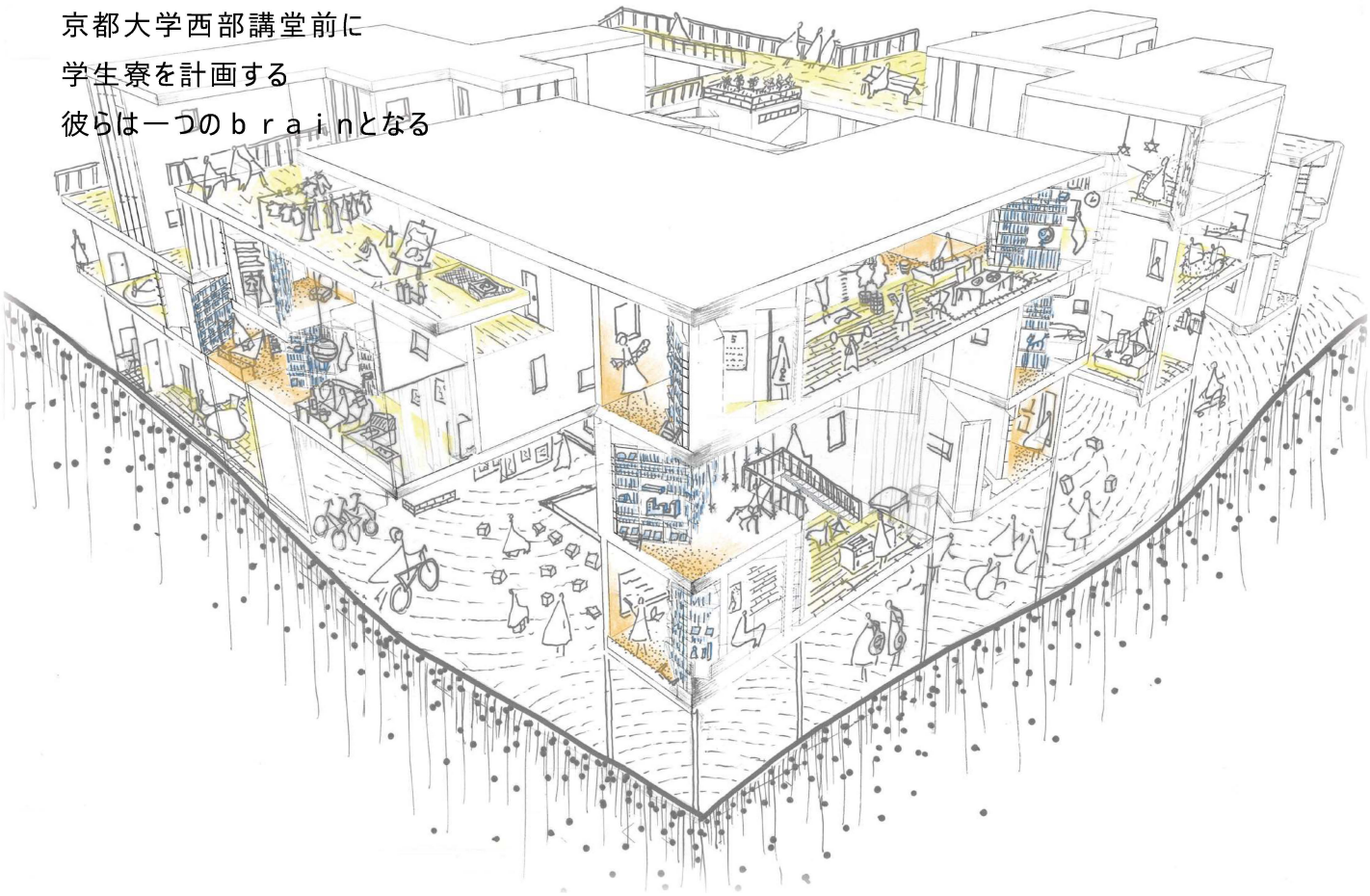
PHASE 1 SECTION
1/1000



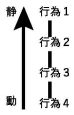
PHASE 5 SECTION
1/1000

Ｓｙｎａｐｓｅ

京大生の日常をつなぎ合わせる
Ｓｙｎａｐｓｅとして
京都大学西部講堂前に
学生寮を計画する
彼らは一つのｂｒａｉｎとなる

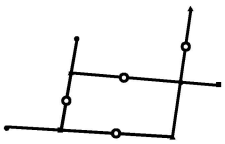


空間ダイアグラム

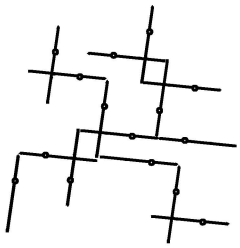


少人数での共有可能な日常行為を抽出
一人の学生が行う日常行為の場を
１本の動線として線上に並べる

行為１：まなぶ
（行為２：寝る（プライベートユニット））
行為３：くつろぐ
行為４：たべる



個人動線を、共有空間を交わらせつつどんどん重ねてゆく
（平面レベル、断面レベル）

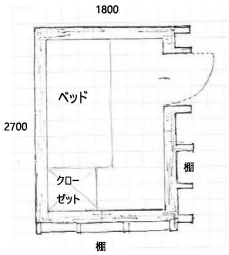


一つの共有空間を２～４人で共有する

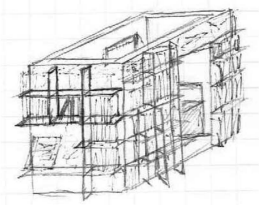
生活コミュニティは学生を通してどんどんつながっていき、大きな対話の輪をつむぎ上げる。

○：個室

あふれだす個のユニット

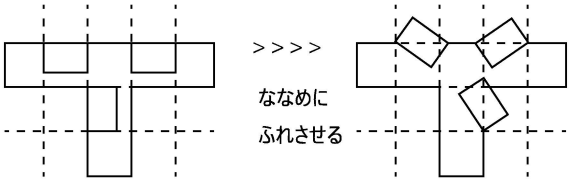


ユニット平面図

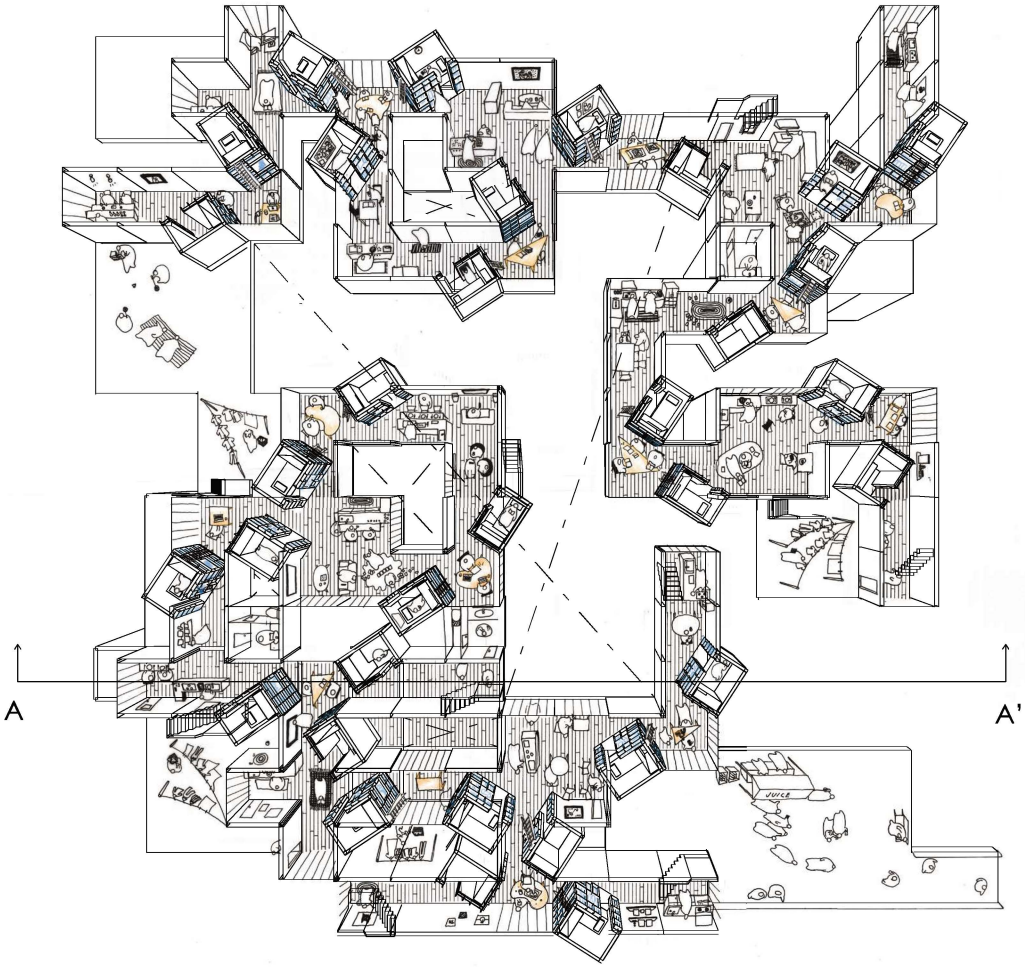


狭い個人の空間から広い外空間へと
住人を、住人の頭の中を、追い出す
その人の棚を通して頭の中身があふれ出す

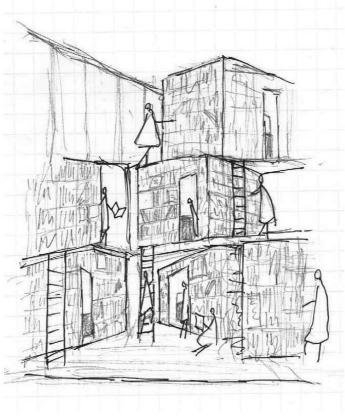
ユニットの平面配置



区切られていた空間どおしがゆったりとつながり通路が本を手に取る場に変わる。
すべての床がつながり、学生たちもじんわりとつながっていく

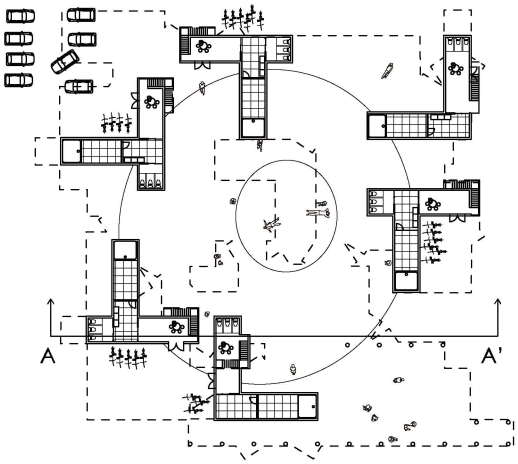


N 2nd FLOOR PLAN 1/400

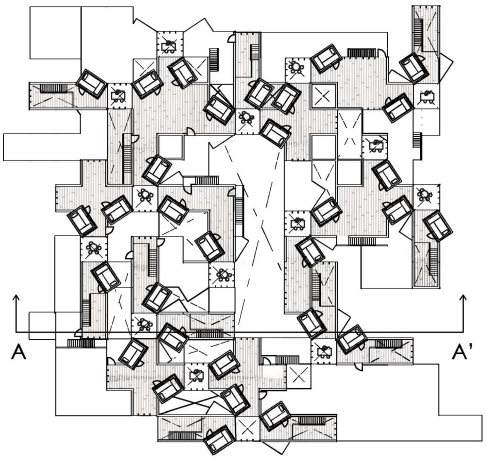


各ユニットが向かい合った空間に
" 本棚の渓谷 " を築く。

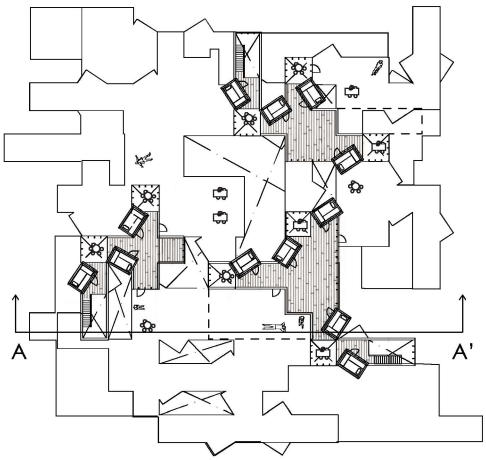
部屋の住人が読んでいる本を手に取れば、 彼が何を学んでいるか、 何に興味を持っているのか分かってしまう。はしごで下に降りれば、 そこには彼女の学ぶ哲学の本がたくさん並んでいるし、 隣の本棚にはあいつの言ってた雑草に関する本がぎっしり・・・上に登ったらいったいどんな本が置いてあるんだろうか。



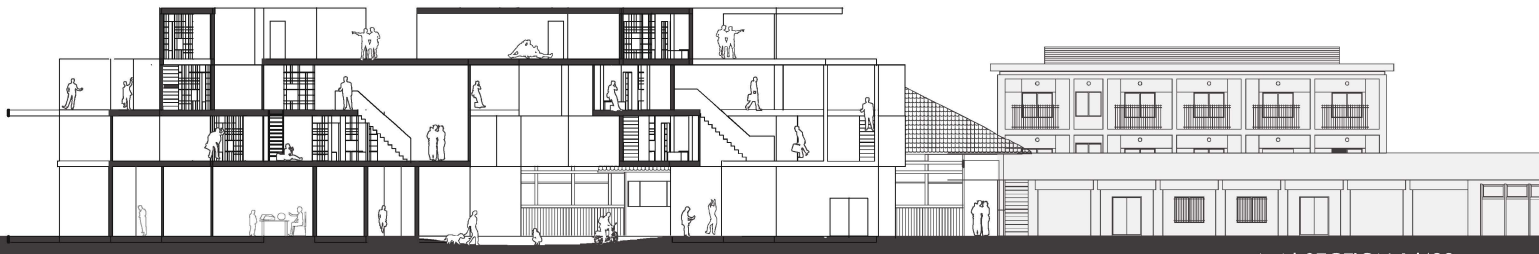
N 1st FLOOR PLAN 1/800



N 3rd FLOOR PLAN 1/800



N 4th FLOOR PLAN 1/800



A-A' SECTION 1/400

伊藤忠太に私淑する

――東京オリンピック選手村への夢想――

「甲の木に乙の木を接ぐ代りに、甲の木に特殊の肥料を施し特殊の手術を加へ、漸漸進化させて終に別種として仕舞ふのです。」

「目的が公共建築で材料が石や煉瓦ならば西洋建築に酷似するものになるが當然キマリキッタ話だと云ふ理屈はあるまいと思ふ。」

自国の建築文化を基調としながら、他国の様式に感化をうけて発展していくべきでる。新たな建築様式を求める時代の風潮に対して、伊東忠太は「建築進化論」を主張した。

そして当時建築界に流布していた当たり前の図式に異を唱えた。それは、彼がアジアをはじめとした世界中を旅したからこその主張であった。

彼に私淑して、二〇二〇年東京オリンピックの選手村の二つの施設を設計した。

敷地は東京湾の埋立地、晴海である。

一. 日本らしさ

国家イベントであるオリンピックの施設には、日本らしさがつきまとう。

様々な文化が混在する〈日本〉にはどこか土や泥につながるアナロジーがある。

二. 埋立地

選手村の予定地は東京湾の埋立地、晴海である。

一九三一年その大部分が埋め立てられて以降、晴海には様々な夢と現実が現れては消えていった。日中戦争激化により中止となった東京万博の予定地、日本軍輸送基地、晴海高層アパート…。

そして今、二〇二〇年に向けて工事が進む晴海には、掘り返された土があちこちに積まれていた。

三. 化けもの

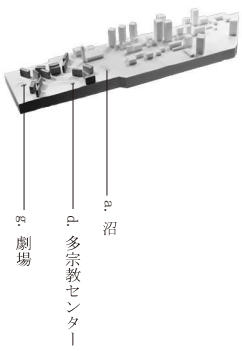
自らを化けもの好きという伊東忠太によると、人間と馬をつぎはぎしただけの、ケンタウルスのような化けものはつまらないそうだ。

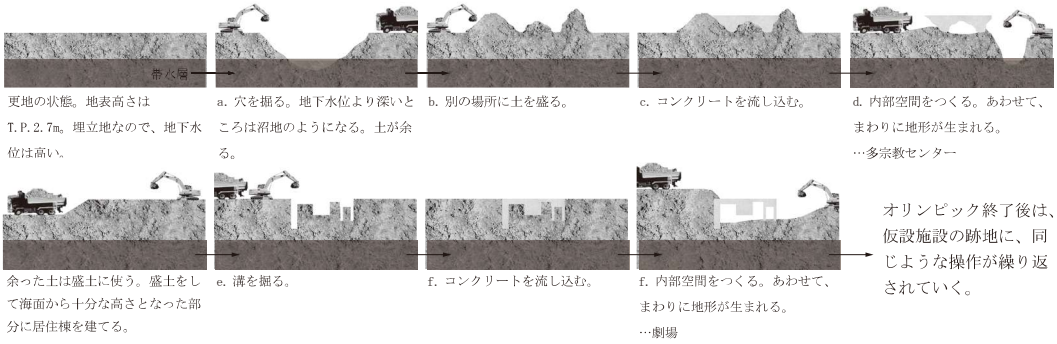
フラットな埋立地に建つビルは、〈ケンタウルス的〉ではないだろうか。

建築と地形とを呼応させながら、それらが渾然一体とした場所を生み出すことを考えた。

「およそ眞の化物といふものは、何處の部分を切離しても、一種異樣な形相で、全體としては渾然一種の纏まつた形を成したものでなければならない。」

引用文：『伊東忠太建築文献　論叢・随想・漫筆』（一九三七年　伊東忠太）





更地の状態。地表高さはT.P.2.7m。埋立地なので、地下水位は高い。

a. 穴を掘る。地下水位より深いところは沼地のようになる。土が余る。

b. 別の場所に土を盛る。

c. コンクリートを流し込む。

d. 内部空間をつくる。あわせて、まわりに地形が生まれる。
…多宗教センター

余った土は盛土に使う。盛土をして海面から十分な高さとなった部分に居住棟を建てる。

e. 溝を掘る。

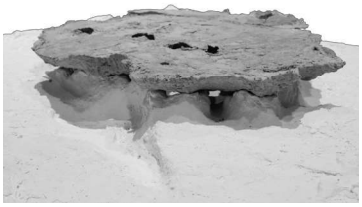
f. コンクリートを流し込む。

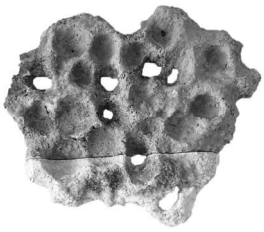
f. 内部空間をつくる。あわせて、まわりに地形が生まれる。
…劇場

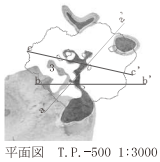
オリンピック終了後は、仮設施設の跡地に、同じような操作が繰り返されていく。

多宗教センター

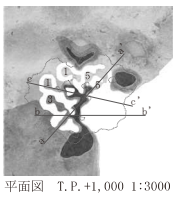
イスラム教、キリスト教、ヒンドゥー教、仏教、ユダヤ教のための控室と礼拝室がある。



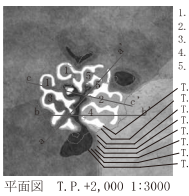




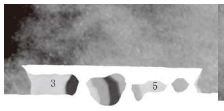
平面図　T.P.−500　1:3000



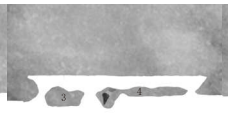
平面図　T.P.+1,000　1:3000



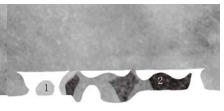
平面図　T.P.+2,000　1:3000



aa’断面図　1:1500



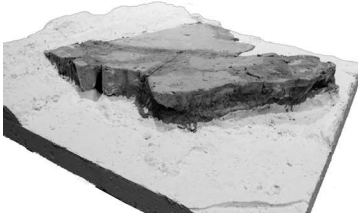
bb’断面図　1:1500



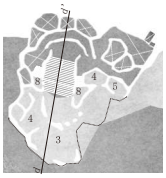
cc’断面図　1:1500

劇場

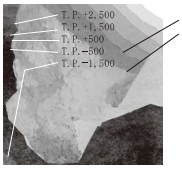
会期中は、日本の伝統文化を紹介するプログラムも組まれる。



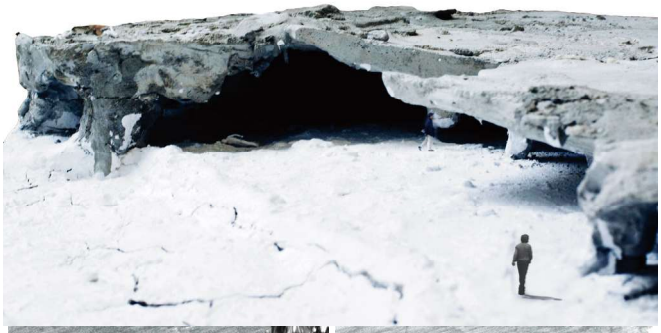
平面図　T.P.−2000　1:3000

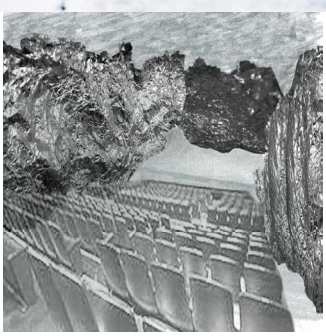


平面図　T.P.−500　1:3000



dd’断面図　1:1500





◀道から

保育園外観▶

交わり　ー人とのかかわりを織りなすみちー

幼い子どもが生まれて初めてを意思の疎通を図ろうとする相手は、親である。
そして両親をはじめ、同世代の子ども・近所の大人など、様々な人たちと関わりながら成長していくことが望ましい。
しかし、子供を幼いうちから保育園などに預け、働くことが珍しくなくなった現在、
通園時間は親が子どもだけに向き合える数少ない時間として、注目できると思う。
そのような”忙しい親子”のコミュニケーションを触発するような「通園路」となるみちを提案したい。

みちは地域の子どもたちの遊び場であり、
親同士・近隣住民同士、あるいは子どもと近所の大人の交流の場である。

【街区平面図　GL+1500】

敷地は大阪市と京都市のほぼ中間にあるベッドタウンに位置する
戸建ての住宅が高密度に建ち並ぶ住宅街である。
周辺からは公営団地や RC 造の住戸・不規則に曲がった街路など
様々な時代の開発の痕跡を見ることができる。

①公共施設
②基礎庭
③保育施設　1. 保育室
2. 遊戯室
3. 職員室
4. 医務室
5. 多目的ルーム
6. 屋外遊戯場

N

1：800

▲基礎庭

◀学童保育施設

【既存住戸活用】

活用例：学童保育施設
自治会館
図書館
カフェ
基礎庭　など

旧街区からそのまま残る既存の住戸を公共施設として活用する。

みちと街区外をつなぐゲート。
近隣住民がこの街区を訪ねるきっかけを提供するとともに、
街区外からみちへと人々を引き入れる存在となる。

▲住戸のベランダから道を眺める

▲子どもの空間から

▲住戸外観

▲みちから和室をみる

▲寝室3から寝室2をのぞく

【新規住戸　ダイアグラム】

街区内において住戸を建て替える際、新規の住宅は門型のフレームによって構成するものとする。フレームを用いることの、道、住戸内部、街区・住戸の構成に対する意義を下に挙げる。

～道～

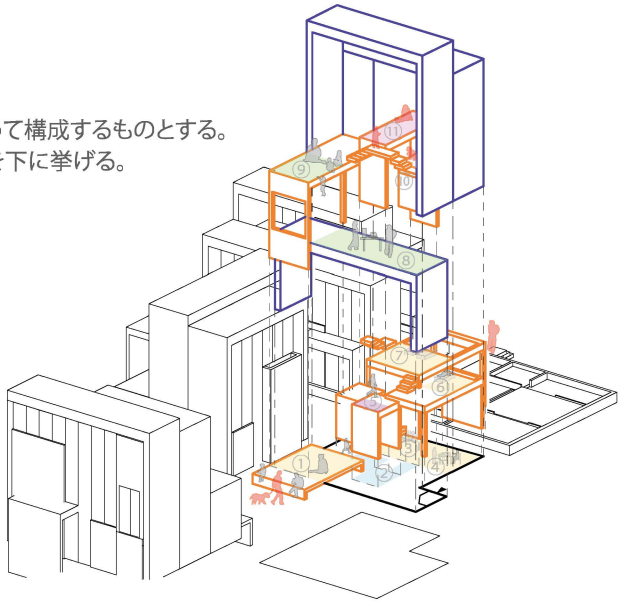
・住戸のプランと連動したフレームが道まで延びることによって、
　歩行者がそこに腰かけたり登ったりして楽しめるようになる。
・様々な高さから伸びたフレームが道で複雑に入り組むことで、
　道の表情が変化していく様が楽しめる。
・フレームが窓口となって、住民同士または住民と歩行者が交流できる場が生まれる。

～住戸内部～

・フレームが各住戸のプランと連動している。
・室を箱とせず、スキップフロアで緩やかに区切られた
　一つの大空間とすることで住戸内の視線の抜けを得る。
・また窓の開閉で十分に風が流れる。

～構成～

・フレーム自体が住戸を支える構造体になっている。
・開口の向きが限定されることで、住民同士の視線のぶつかりを制限できる。



新規住戸の一例

①和室　(GL+600)
②洗面・浴室
③リビング
④キッチン・ダイニング
⑤納戸　(GL+2800)
⑥寝室 1　(GL+3000)
⑦寝室 2　(GL+3800)
⑧ベランダ　(GL+4600)
⑨ベランダ　(GL+5200)
⑩寝室 3　(GL+5600)
⑪子供の部屋　(GL+6400)

街区全体断面パース

神吉スタジオ *KANKI studio*	場所の力	これまでにない変化をみせる現代の都市・地域で、どのようなランドスケープが受け継がれ創造され得るだろうか。新しいランドスケープに向かうために、場所に潜む力を読み、その力を顕在化させる建築と都市・地域空間の提案をめざす。各人が選ぶ敷地およびその位置する都市・地域の「場所の力」の読解作業を重視しつつ進める。敷地は、全員参加でそれぞれの現地調査に赴くため、京都から日帰り可能圏内とし、自由に選ぶ。
三浦スタジオ *MIURA studio*	新しい学びの場	教員、外国人、企業人、地域との交流を取り入れるなど学生寮を学びの場として積極的に位置付ける動きが見られる。本スタジオでは学生寮、企業の寮などの事例を調べた上で大学に相応しい教育・研究・地域交流機能を有する寮を学生の視点から構想する。
平田スタジオ *HIRATA studio*	Beyond X 私淑の建築	独自の思想を背景に優れた作品を残した建築家を一人選び、その思想を再解釈して現代の建築を設計する。丗泝、ミケランジェロ、伊藤忠太、ロース、フラー、ホライン、、「私淑」する建築家は各自が何人かの候補を挙げ、相談の上決めるが、鬼籍に入っていることを条件とする。
柳沢スタジオ *YANAGISAWA studio*	子育てを軸とした既存街区の再編	建て住宅の建ち並ぶいわゆる住宅街は、今後どのように変わりうるだろうか。人口減少や空き家の増加、住民の高齢化や世代間ギャップなどの問題に対して、住宅単体、また集合住宅や団地としてでもない、戸建ての集合した街区スケールにおいて可能な提案があるはずである。ここでは、主に住宅と街との関係を視点に、ベッドタウンの戸建て住宅地における既存街区を対象として、子育て環境の整備を基軸・契機とした、複合的街区型居住への再編手法の提案に取り組んでほしい。